

県立赤穂高等学校創立 90 周年を迎えて

学校長 大西 正則



赤穂高等学校同窓会の皆様におかれましては、ますますご健勝にてご活躍のこととお慶び申し上げます。平素は、母校の教育活動に格別のご理解とご支援を賜りまして、心よりお礼申し上げます。

私は、平成 27 年 4 月より、県立赤穂高等学校長として着任いたしました。全国に「忠臣蔵のふるさと」として知られる歴史ある赤穂市で、そして、2 年後に創立 90 周年（赤穂実科女学校開校からカウントすると 105 周年）を迎える伝統ある赤穂高等学校で勤務できることを大変光栄に思います。

顧みますと、本校は、昭和 2 年、赤穂町公会堂を仮校舎に、県立赤穂中学校として開校し、翌 3 年には赤穂城本丸跡に本校舎が建設されました。初代校長武川先生は、知徳の併進、知行の合一に努められ、「質実剛健」「実践躬行」を教育の二大綱領とされ、作業・教練・武道を教育の中心に据えた一貫した人格教育、精神教育に血潮を注がれました。

その後、昭和 23 年の学制改革で、現在の兵庫県立赤穂高等学校と改称され、昭和 26 年には定時制課程も設置されました。昭和 46 年、本丸跡の校舎は立ち退きを余儀なくされ、昭和 56 年、この地に新校舎が建設され、現在に至っています。

本校の使命は、「質実剛健」「礼讓敬愛」「自主創造」の校訓のもと、「文武両道のバランスのとれた人間」、「ふるさとを愛し、ふるさとに貢献できる人間」、「感謝の気持ちを持つ心豊かな人間」の育成であると考えています。現在、学校教育方針を「真」を学び、「善」を行い、「心豊かな感性」を持つ生徒の育成と定め、上記使命の実現に向け、教職員一同、全力で取り組んでおります。この創立 90 周年を機に、本校の建学の精神と先輩の残された偉業に思いを馳せ、良き伝統の継承に努めるとともに、地域の期待に応える学校づくりを推進し、本校の発展に努めていく所存です。

どうか、赤穂高等学校の同窓生の皆さん、いつまでも温かい目で赤高生を見守っていただきますようお願い申し上げます。